

第6学年社会科「日本国憲法に基づく自分たちの生活」

学習指導者 滝井 康隆

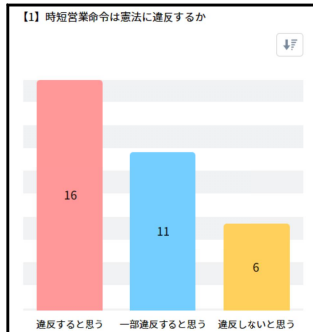
諦めずに課題解決に取り組むことができるように、既習事項を手掛かりにしたり、友達のを参考にししたりする方法を身に付けさせるために働きかけました。既習を振り返りやすくするために資料の大切だと感じた部分を切り抜いて学習支援アプリ上の「学びのスクラップブック」にまとめたり、友達と資料のやり取りをしながら話し合える場を設定したりしました。

時短営業命令は、憲法に違反しているだろうか

【見通し】

飲食店への時短営業命令は憲法に違反しているか友達と話し合うことで、自らの考えを深めるという目的を確認しました。

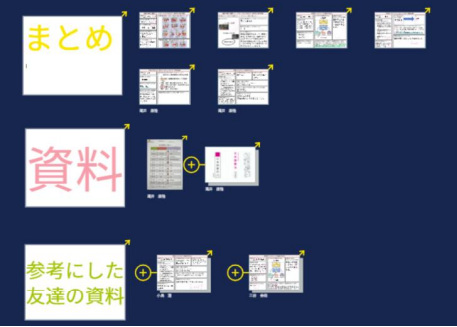
その後、学習支援アプリのアンケート機能を使って、テレビモニターに全体の考えの傾向を表示しました。子供たちは話し合いへの意欲を高めていきました。



【行動】

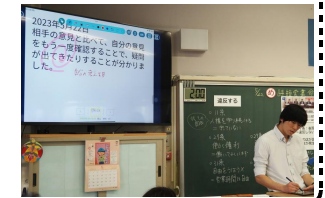
子供たちは、既習事項をまとめたカードや、関係する条文を切り抜いた資料を見せ合いながら話し合いを進めていきました。自分と同じ考えの人と話し合った子供は、自分が使っていなかった資料をもらって考えを強化していきました。自分と違う考えの人と話し合った子供は、相手の資料を見ながらなぜそう考えたのか理由を聞き、新たな考えに触れていきました。実際の裁判の判決を伝えた後、既習事項や友達の考えを参考に自分なりの結論を出すよう促しました。本時のような議論を続けていくことが社会をよりよくしていくことを共有しました。

決まりを基に、国の政治のやり方に対して、自分の考えを持って言えるようになろう



【振り返り】

振り返りの全体交流では、テレビモニターにカードを映し、直接コメントを書いて、本時できたことを価値付けました。「いろいろな考えから違憲ではないと知ったけど、店のことを考えるとまだ納得できない」などと、さらに考えを深めようとする姿も見られました。



成果と課題

○日本国憲法を学習する際に、具体的な会社や政策を取り上げて考えさせたことで、根拠を明確にしながら互いの考えを積極的に聞きに行く話し合い活動ができ、民主政治における議論の大切さを感じさせることができた。

▲話し合いの際に、子供たちが根拠としてあげたものが憲法の条文だけにとどまってしまう、自分たちの生活や店の立場に立った考えの表出が少なかった。憲法で定められている内容にも優先順位があることも捉えさせなかった。